



丹原 史晶さん

子どものアトリエ七星主宰
昭和49年8月生まれ・岡山出身・2児の父親
保育士資格・色彩コーディネーター2級取得、
(株)ハート&カラー認定 チャイルドアートインストラクター
ART&THERAPY 色彩心理協会実践会員

その子は、お母さんの怒った顔を描きました。 その子のお母さんへの気持ちは、好き？嫌い？

**色遣いに
子どもの心の有り様が
にじみ出ます。**

私は、生徒一人ひとりの使った色を毎回記録に取り、1カ月ごとにまとめています。そして、1年間の子どもと色の関係を保護者の方に報告しています。その中から、ある生徒の例をお話ししましょう。

その生徒は病気で入院し、教室を少しの間、休みました。

退院後、教室でつくる作品の色遣いに、興味深い変化が現れました。日頃、その生徒のお母さんが「これがお母さんの好きな色なのよ」と話していた色を使うようになって

いたのです。

退院明けてまだ心細く、母親を求める気持ちが現れたのか、あるいは、入院中、ずっと付き添って看病してくれた母親への感謝の気持ちなのか。いずれにしても、母親に気持ちを伝えようとしている様子。その変化から読み取れました。なかなか口に出しては言えない気持ちの有り様が、色遣いの変化ににじみ出てきます。

もう一つ、こんな例もあります。ある日、教室の数人の生徒が、お母さんの顔を描いてくれました。その中の一人の生徒は、怒った顔のお母さんを描きました。ちよっとショックな様子のお母

（ ）かを受け止め、その気持ちの有り様を認めることを付け加えるようにしています。
「あなたのことを受け止めているわよ」というメッセージが子どもに伝われば、もつとお母さんとコミュニケーションしようとしてくれます。
先ほどの生徒の例は、その好例です。

**この教室は
子どもの心の発散の場
でありたいと思います。**

子どもにとって、この教室は「心の発散の場」でありたいと思います。そのために、子ども一人ひとりのその日の気持ちと向かい合うことから、私自身を子どもに受け入れてもらうように努めています。
禁止や命令の言葉ばかりを投げつけられている子どもは、最初のうち戸惑いますが、すぐ夢中になって創作に取り組みむようになります。「ここでは何をしてもいいんだ」。その安心感が、子どもとのコミュニケーションの出発点です。

次回は、教室での子どもとの接し方を、私がどう家庭で活かしているかについてお話ししようと思います。

**まず、子どもの気持ちを
受け止めるきっかけを
お話しします。**

コミュニケーションは、相手を受け止めることが大前提になります。私は、色遣いや作品づくりを通して子どもたちが見せてくれるメッセージを読み取り、お母さんたちにお話しします。そして、子どもの気持ちに何が起きているの（ ）

私はこの教室で、怒らないわけではありません。子どもに分かりやすく怒り、必要以上に怒らないだけです。子どもの年齢によって、同じ言葉でも、伝わったり伝わらなかったり

子どものアトリエ七星・アウトライン

クラス 月2回第1・3週クラスと第2・4週クラス
(※)は2歳児が対象

水曜日	金曜日	土曜日
10:00~70分(※)	10:00~70分(※)	10:00~90分
13:00~90分	14:30~70分(※)	13:00~90分
16:30~90分	16:30~90分	16:00~90分

月謝 土曜日・月2回/5000円、
水曜日もしくは金曜日・月2回/4500円
水曜日もしくは金曜日・月2回(※)/4000円

問い合わせ TEL 086-284-8402 岡山市楷津958-4